

HUB - IBARAKI ART PROJECT 2025 開催のご案内

HUB-IBARAKI ART PROJECT

茨木市文化振興財団主催による「HUB-IBARAKI ART PROJECT」は、2024 年に新体制のもとで再始動し、地域に根ざしたリサーチと表現の場として歩みを進めてきました。

2025 年度は、京都とロンドンを拠点に活動するアーティスト・尾角典子を迎え、AI やセンサーなどの技術を取り入れた体験型展覧会「生成の庭」を 2025 年 12 月 4 日（木）から 12 月 21 日（日）まで開催します。今回のプロジェクトでは、茨木市におけるリサーチを通じて集めた人々の声をもとに、来場者の感覚や動きに呼応するインスタレーション作品を発表します。

会場となる茨木市福祉文化会館（オークシアター）は、建て替えに伴い本展をもって取り壊される予定であり、長年市民に親しまれてきた建物で開催される最後の展覧会となります。

本プロジェクトの広報および取材へのご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2025 EXHIBITION
12/4 - 12/21
Open Thursday to Sunday only

生成の庭
GARDENS OF BECOMING
尾角典子
Noriko Oikawa

日 時: 2025年12月4日(木) - 12月21日(日)
木金土日のみ開催
時 間: 12:00 - 19:00
入場料: 500円(花の種付き)
大学生以下無料(学生証提示要)
茨木市在住・在勤 平日のみ無料(要証明書提示)
※土日は市外・市内問わず入場料500円
会 場: 茨木市福祉文化会館(オークシアター)3階

Dates: December 4 - 21, 2025 (Open Thursday-Sunday only)
Hours: 12:00 - 19:00
Admission: 500 JPY (with flower seeds)
Free for university students and younger (with student ID)
Free on weekdays for residents or workers in Ibaraki City (with proof of address/employment)
*On weekends and holidays, admission is 500 JPY for all visitors regardless of residence, except students.
Venue: Ibaraki City Welfare Cultural Center (Oak Theater), 3rd Floor

< デザイン: 本村信裕 nobuhiro motomura (STUDIO GIGI) >

[HUB-IBARAKI ART PROJECT2025 概要]

尾角典子 『生成の庭』

会期: 2025 年 12 月 4 日 (木) - 12 月 21 日 (日) 木・金・土・日曜のみ開催

時間: 12:00 - 19:00

会場: 茨木市福祉文化会館 (オークシアター) 3 階

〒567-0888 大阪府茨木市駅前四丁目 7 - 5 5

入場料: 500 円

大学生以下無料 (学生証提示要)

茨木市在住・在勤 平日のみ無料 (要証明書提示)

※土日祝は市外・市内問わず入場料 500 円

HUB-IBARAKI ART PROJECT について

茨木市の文化芸術振興事業として 2013 年に始動した「HUB-IBARAKI ART PROJECT」は、茨木市に暮らす人々が、現代アート作品・アーティストとの交流を通して、アートの本質的な魅力である「表現の豊かさ／美しさ」「探求心」に触れ、その体験をそれぞれの日常の中へ還元していくことをめざしたアートプロジェクトです。

2023 年度、茨木市から茨木市文化振興財団に移管され、体制をリニューアルした本事業では、プロジェクトタイトルに含まれる「HUB」の意味／役割についても問い直し、新しい表現・活動が生み出される創造活動拠点の形成を射程に入れて事業展開していくことを 23 年度以降の課題の一つとしています。現代アートを軸として、異なる領域とのネットワークや市民との多様な関わりをつくっていくこと、まだ価値の定まっていない未知なる表現活動の実験の場を創出することで「未来につながる『文化のまち』いばらき」（茨木市文化振興ビジョン（第 2 期））を共創していくことをめざします。

2024 年度リニューアルした「HUB-IBARAKI ART PROJECT」では、ディレクター内田千恵のキュレーションのもと、アーティスト 1 名を招聘し、先駆的なアートプロジェクトに取り組んでいます。

ディレクターステートメント 内田千恵

茨木市文化振興財団に移管されリニューアルした「HUB-IBARAKI ART PROJECT」。二年目となる今回は、京都とロンドンを拠点に活動するアーティスト・尾角典子を迎え、大阪では初めてとなる個展を開催します。本プロジェクトは、アーティストが茨木市をリサーチすることを軸に、そこで生まれる学びや気づき、対話をもとに作品が立ち上がる過程を重視しています。

尾角は、イギリスでアニメーションを学んだのち、コラージュを基盤としたアニメーション作家として活動をはじめました。断片を切り取り、重ね合わせ、新しい物語を立ち上げるその方法は、近年のインスタレーションや VR といった多様なメディアへと展開しても、一貫して彼女の制作の根幹にあります。神話や哲学から量子力学などの現代科学に至るまで、幅広い領域への関心をもとに異なる要素を結び直すその姿勢は、常に「コラージュ」という思考に支えられています。

尾角が茨木でのリサーチでまず着目したのは、「堆積層（地層）」という視点でした。物質や記憶が時間とともに積み重なり、断絶や変容を経て新たな景色を生み出す。そのプロセスを、彼女は「茨木市をかたちづけてきた人々の声」を素材として収集し、コラージュの技法に重ね合わせました。さらに AI という異質な技術を共存させることで、アナログとデジタルが交錯しながら、土や植物が育まれる「庭」のように生成と循環を繰り返す空間を構築します。

人々の声はコラージュの断片であると同時に、この土地と未来をつなぐ層となります。本展では、来場者は単なる観客にとどまらず、この循環を担う一つの要素として加わり、新たな時間の層を共に築いていきます。

会場となる福祉文化会館会館は、長年地域で親しまれてきましたが、まもなく取り壊される予定です。本展を通して来場者に手渡される花の種が、この場所がなくなってもそれぞれの生活の中に芽吹き次の土壤へとつながっていけば幸いです。

アーティストステートメント 尾角典子

私の関心は、「変容」するものそのものです。土地に根ざした民話や語りのように、時代や人々の手を通して形を変えながら受け継がれていくもの、そして現代ではデジタル技術を介して新たな形へと変容していく物語にも強く惹かれます。それらは単なる物語ではなく、物理的な土地や環境とも絶えず影響しあう、生きた情報のエコシステムだと捉えています。こうした情報の循環や変容の過程に注目するなかで、私は記憶や土壌、環境の断絶という現実にも目を向けるようになりました。

かつて出来事は土に積み重なり痕跡を残していましたが、アスファルト化によってその記録は途絶えつつあります。しかし一方で、人工的に整えられた風景や造花のような模倣も、新たな「堆積層」として読み解けるかもしれません。テクノロジーが自然や記憶に介入する現代において、私たちが「時空を超えたエコシステムの一部」として循環を捉え直すことは、新しい視点を獲得するために欠かせないと感じています。

茨木での制作では、市民の方々と出会い、声を聞くなかで、多様な時間と関係性が折り重なって存在していることを実感しました。人々は日々の営みを通じて街をひとつの「庭」として育んでいます。その営みはやがて層となり、痕跡となり、掘り起こされ、新しい景色を生み出す養分へと変わっていくでしょう。

今回の展示「生成の庭」では、そうした声を集め、デジタルとアナログを交差させ、土の循環を意識しながら、生きた場をつくることを試みました。庭のように要素は互いに作用し合い、芽吹き、変化していきます。リサーチ期間中のワークショップでは、参加者が言葉をコラージュし循環させることで、新しい景色や関係性を発掘しました。来場者もまた、この庭の循環の一部として関わり、未来へつなげる種をまいていく存在となります。さらに、この会場に飾られていた薔薇の花は、都市や人、時間との関係性を示す象徴として響きました。そして会場が来年取り壊されることも、生成と消失、循環のメタファーとして本展示に重なっています。

「生成の庭」は、完成された作品ではなく、関係性の循環そのものを体験する場です。この庭に立つことで、来場者自身もまた都市や他者、技術、土とのつながりを感じ取り、新たな視点の種を持ち帰っていただければと願っています。

尾角 典子 Noriko Okaku

1979 年 京都生まれ。2005 年 Royal College of Art アニメーション 修士。

2003 年 Chelsea College of Art and Design ファインアート・メディア卒業。

ロンドンと京都を拠点に活動。哲学や科学、神話や民間伝承など多様な要素を組み合わせながら、コラージュを中心にアニメーション、インスタレーション、パフォーマンスなど幅広い表現を展開している。VR や AI などの最新技術も取り入れ、解釈や意味の揺らぎを探る作品を生み出している。

主な展示やパフォーマンスに「# 拡散展」十和田市現代美術館 space、(2024)、「THAT LONG MOONLESS CHASE / その長い月のない追跡」(金沢 21 世紀美術館 &21+、2023)、「VOCA 展 2019 (上野の森美術館、東京)」、「The Interpreter」(QUAD Gallery、イギリス、2015) など。

< 過去の作品 >



「# 拡散展」
2024年
Photo: 小山田邦哉



「Air Lines」
2023年
提供: 羽田みらい開発株式会社



「That Long Moonless Chase
/ その長い月のない追跡」
2021年



「デンキノカミサマ」
2024年

< 展覧会開催までの主な取り組み >

地域連携プログラム「言葉のかけらでつくる新しい風景」



※この画像のみ 撮影：山神美琴

撮影：加藤菜々子

HUB-IBARAKI ART PROJECT では、地域とのつながりをより広げていくことを目的に、今年度から新たに「地域連携プログラム」を開始しました。その第一の取り組みとして、招へいアーティスト・尾角典子による地域の学校への出張授業を実施しました。

ワークショップ「言葉のかけらでつくる新しい風景」は、茨木市立忍頂寺小学校、茨木市立彩都西中学校、大阪府立茨木高等学校、追手門学院大学の4校で開催。参加した子どもたちや学生たちは、校内や身の回りの風景を観察し、感じたことを「言葉」として書き出し、それらを組み合わせて「言葉のコラージュ」作品を制作しました。同じ場所でも人によって異なる視点や表現が生まれることを体感する機会となりました。

この出張授業は、尾角が茨木で進めるリサーチの一環として位置づけられており、学校や地域の人々との交流を通じて、展覧会へとつながる新たな表現の種を育む試みです。今後も、地域と連携しながらリサーチを深めていく予定です。

< リサーチの様子 >



< 関連プログラム >**アーティストによる展覧会ツアー**

日時 | 12 月 4 日 (木・初日)、14 日 (日)、20 日 (土) 13:00~ / 各 30 分

会場 | 茨木市福祉文化会館 (オークシアター) 3 階

参加費 | 無料 (展覧会チケットが必要です)・要予約

尾角典子とともに展示室を回りながら、展覧会の意図や作品の解説を行います。

言葉と視点の刺繍ワークショップ

日時 | 12 月 7 日 (日) 13:00 - 17:00 頃

会場 | 茨木市 市民総合センター【クリエイトセンター】1 階 喫茶・食堂

展覧会場をめぐり、そこで見つけた言葉や印象を布に刺繍します。手芸が初めての方も歓迎です。刺繍した布は尾角がポーチに仕立て、後日お渡ししますクリエイトセンターでの受け取りまたは、着払いで郵送)。

参加費 | 3,500 円 (展覧会入場料込み)・要予約

定員 | 10 名

アーティストトーク

アーティスト本人が作品背景や本プロジェクト・作品についてお話しします。

日時 | 12 月 13 日 (土) 14:00 - 15:30

会場 | 茨木市 市民総合センター (クリエイトセンター) 1 階 喫茶・食堂

参加費 | 500 円 (お茶付き)・要予約

※予約・詳細に関しては、公式ウェブサイトをご確認ください。

HUB-IBARAKI ART PROJECT

主催：公益財団法人 茨木市文化振興財団

助成：一般財団法人地域創造、公益財団法人 花王 芸術・科学財団

ディレクター：内田千恵

アドバイザー：雨森 信

取材のご依頼・広報に関するお問い合わせは、下記までお気軽にお問い合わせください。

< お問い合わせ・主催 >**公益財団法人 茨木市文化振興財団**

〒567-0888 大阪府茨木市駅前四丁目 6 番 16 号

茨木市市民総合センター (クリエイトセンター) 1 階 文化事業係

公式サイト：<https://hub-ibaraki-art.com/>TEL：072-625-3055 (10:00~17:00) E-mail：info@hub-ibaraki-art.comFB：[@HUBIBARAKIARTPROJECT](#) X：[@HubIbaraki](#) Instagram：[@hubibaraki_art](#)

公式サイト

